

カードワース・シナリオ

「ジャツカルと猫」

序章^{プロローグ}

著..エカ

編..みよるにる

プロローグ	… 4
ジャッカル	… 14
カードワースの遊び方 (付録 CD-R の使い方)	… 20
あとがき	… 24

はじめに、にかえて

みよるにる

皆様、始めまして。みよるにると申します。この度はカードワースという、あるフリーゲーム・ソフトの宣伝を兼ねて、小説とゲームのセットでの頒布という形で製作しました。エカのシナリオ、そしてカードワースの面白さを少しでも伝えられれば幸いです。

カードワースに関しては、CardWirth.NETでの活動を軸にしています。懐かしいな…と思った方、是非サイトへのご意見をお寄せ頂けませんでしょうか。CardWirth.NETではカードワースの過去、そして未来の保全保管を目指して様々な活動に手を出しています。貴方のご意見、ご協力を切にお待ちしております。

それでは、エカの語りからご覧下さい。

春の陽が照らす少女の横顔には、まだあどけなさが残っていた。
首都近郊と言えば聞こえのいい、何処にでもあるような住宅地。

少女はこの辺りでは割と名の知れた、六桜学園りくおうの高等科の制服に身を包み、背中にはセミハードのギターケースを背負っている。

満開の桜並木のなか、少女は駅へと向かっていた。

これから、大事な仕事があるのだ。

少女は駅の改札口に着くと、ICカードは使わず、切符を買い、上りの電車を待つ。程なくやって来た電車に乗り込むと席は空いており、少女は背負っていたギターケースを降ろすと、手近な席へ腰掛けた。

電車にゆられながら、少女は天井の中吊り広告に目を向ける。

それは週刊誌の広告で、デカデカと大きな字で「組織（システム）とは何だったのか」元幹部が語る「世界を司る力」〜と書いてあった。

かつて、この世界を裏で操る組織（システム）があった。

政治、経済、軍事など、全てにおいて、この世界は組織によって管理、運用されていた。

そして、今から20年前、世界の主要都市で発生した同時多発テロを皮切りとする3度目の世界大戦によって、その組織は崩壊したと言われている……。

小一時間ほどして少女は電車を降りた。高層ビルがいくつも建ち並び空を四角く切り取っている。

日本の首都、東京の新都心だ。

少女はキヨスクでさっきの広告の週刊誌を買くと、ギターケースのポケットにしまう。

改札口を出ると、少女はゆっくりと歩き出した。

背広姿のサラリーマンとすれ違い、並んで歩くカップルの間をすり抜け、自転車を追い越され、いったいどれだけ歩いただろう。少女は、表から少し奥まった通りを歩いていた。

人通りは少なく、ひっそりとしていて、野良猫が道端のオートバイの上で、気持ち良さそうに陽にあたっている。

少女が猫に手を伸ばすと、猫は警戒する様子もなく「なー、なー」と鳴く。

腹や喉元をなでてやるとゴロゴロゴロと喉を鳴らす。それがとても可愛らしくて、少女はしばらく猫と戯れていたが、時間が押してきたのか、名残惜しそうにその場をあとにした。

しばらくして、少女は、とある古びた雑居ビルにたどり着いた。ビルは地上10階建てで、テナントはほとんど入っておらず、さながら廃墟のようだった。

少女はエレベーターの前を素通りして、非常階段へと向かう。

最初から電源が切れていることは承知の上なのだろう。

狭い階段を一步步昇っていく。

目指すは屋上だ。

ギリギリと金属のきしむ音をたてながら、扉を開ける。

斜陽が少女の頬を、ほの赤く染める。

屋上は錆びついたエアコンの室外機やアンテナなどでにぎわっていた。

ギターケースを横たえ、ゆっくりと開く。

そして、少女が中から取り出したのは、ギターでもベースでもない、明らかに異質なものだった。

H-S Precision TTD. 米国のH.S.プレジジョン社製のテイクダウンライフル（分割式ライフル銃）、そのタクティカルモデルだ。

少女は慣れた手つきでレシーバとバレルをつなぎ、サプレッサをねじ込み、スコープを取り付ける。

その姿はまるで「ダーティハリー」のスコルピオが二式テラを組み立てているかのようにあった。

もつとも、こちらは年頃の美少女なのだが。

ライフルを組み上げ、少女は空を仰ぎ見る。茜に染まりゆく静寂に、今は心を休めるばかりだ。

夕闇が背後に迫るなか、4月の夜風が少女の漆器のように艶やかな黒髪をふわりとなびかせる。

ライフルを静かに構え、スコープ越しにじっと「その時」が訪れるのを待つ少女。スコープには何故かレティクルが刻まれておらず、その奇妙なスコープを覗き込む少女の瞳には、遙か遠くの高層ビル群が、手を伸ばせば届きそうなくらい拡大されて、映っていた。

目を閉じて、ゆっくりと息を吸い、そして吐く。

精神を右眼に集中させてゆく。

FCS "JACKAL" Boot up.

意識のなかで、その起動を告げる電子音が響く。

目を開けると、ヴンという音とともに、少女の右眼に無機な光が宿った。

Start. Ballistic calculations.

電子音声とともに、少女の網膜（マクラー）に一筋の光が映し出された。

その光線は彼女の構えているライフルの銃口から、真っ直ぐに、しかし緩やかな弧を描いて伸びる。

「来た」

少女は目を凝らす。

高層ビルの谷間、1人の男が、黒塗りの高級セダンに近付いていく。

「残念だけど、貴方をその車に乗せるわけにはいかないの」

少女は鈴を転がしたよううな可愛らしい声で囁いた。

「代わりに救急車と霊柩車を用意したわ」

少女はトリガーに指を掛ける。

「悪く思わないで」

獣のように鋭く研ぎ澄まされた目。

レティクルの無いスコープ。

電気信号によって「制御固定」された全身の筋肉。

スクリーンの光線が、吸い込まれるようにピツタリと男の頭部を貫く。

あどけなさなど、微塵も残っていないかった。

ゆつくりとトリガーを絞ってゆく。その人差し指に込められたのは、一片の憐れみか。

「私なんて存在しない。それは貴方も同じよ」
祈るように呟く。

カタン。

撃鉄は、落ちた。

かつてこの世界を裏で操る組織（システム）があった。そして、20年前の大戦によってその組織は崩壊した。その組織が遺したモノのひとつ。射撃指揮装置（FCS）の右眼を持つ者。

弾道を預言する者

「Ballistic Prophet」

これは、兵器として生み出されたヒトの、終わりへと続く話、そのほんの序章に過ぎない。

ジャッカル

カラン、カラン。

路地の一寸奥まったところにひっそりとたたずむ小さな喫茶店。

その店のドアベルが賑やかに音をたて、客が訪れたことを知らせる。

入ってきたのは15、16歳くらいの、小柄な黒髪の少女だった。

「いらっしやー……って、お前さんかい」

白髪頭の老人は客が誰だかわかると、牛乳を火にかけ、食器棚からカップを取り出した。

「昨日は、お疲れ様じゃったのお？」

カップを拭きながら、マスターは言った。

「ふふ……何のことかしら？」

鈴を転がしたような声で少女はおどけて見せると、一番奥のカウンターにおもむろに腰を掛けた。

「トボケおつて。世間様はまた大騒ぎじゃぞ？」

マスターは皮肉気味に少女へ問いかける。

「物騒な世の中になつたわね」

「誰のせいじゃろうのお？」

二人は頬を緩め、静かに微笑む。

「どれだけ騒いだところで、私は捕らえられないわ」

背負っていたギターケースを隣のカウンターに座らせると、その中から一冊の週刊紙を取り出す。

「儂が告げ口すれば一発じゃがの」

ニヤニヤと、マスターは悪戯な笑みを浮かべる。

「その時は、マスターがその命と、お得意様を一人失うことになるだけ」

さらりと言つてのける少女に「冗談がキツイじゃるて」と肩を竦めるマスター。

「それで、調子はどうじゃ？」

「私？それともこの子？」

昨日買った週刊紙に目を通しながら、ギターケースをポンとたたく。

「お前さんの心配なぞ誰がするかつ。小生意気で口の減らんガキじゃのお！」

かつかつかつと高笑いするマスターは、「その子じゃよ」とギターケースを指差す。

「良くできた子よ」

遠くを見据え口を開く。

「それこそ、恐ろしいくらいにね」

「そりゃ、儂がつくつたからのお」

「ただ、FCSとのリンクがもたつく感じがするね」

「お前さんの眼が鈍ったんじゃないかい？」

マスターがホットミルクをカップに注ぐ。

ゆらりと揺らぐ湯気。少女の瞳。

「かもね」

苦笑する少女は静かにそれを受け取った。

「またホットミルク？……子供扱いして」

そう不満を漏らしつつも、満更でもない様子だ。

「好きなくせに」

「まあね」

ふうふうと息を吹き掛け冷ましながらか、ちびちびと口に運んでゆく。

「それに」

マスターは追い打ちを掛けるかのように言う。

「その格好で子供扱いするなと言うのが無理な注文じゃろうて」

確かに、その通りである。

「仕方がないわ。これがいまの私の役なんだから」

少女のまるで自分が女子高生でないかのような口ぶりに、驚く様子もなく、マス

ターは呟く。

「弾道を預言する者、と呼ばれて恐れられてた男とは思えんのお……」

「元々男かどうかも怪しかったけどね」

少女は皮肉気味に返す。そこに込められたのは、コンプレックスか。

「ところで」

二杯目のホットミルクを飲みながら、少女は、おもむろに尋ねる。

「オーバーホール、済んだ？」

「あれか？」

おお、そうじゃったのお。というような顔でマスターは言う。

「勿論、完璧じゃ」

マスターはそそくさと奥の部屋に消えていくと、しばらくして煎餅の缶を小脇に戻ってきた。

「これじゃ」

べこんつと缶の蓋を開ける。

新聞紙や乾燥剤に囲まれて、一丁の拳銃が鈍い輝きを放っている。

少女は無言で、それを静かに手にとった。

レスベア社のモノリスをベースにしたそれは、サイトはオミットされスライド上はのっぺらぼうで、グリップも彼女の小さな手に馴染むよう薄く削られていた。

傷だらけのスライドには、エジプト神話の冥界の神アヌビスが刻まれ、切れ長の目で少女のことをじっと見ている。

「おかえり」

少女は刻印に向かってそう囁くと、少し間を開けてこう続けた。

「ただいま」と。

カードワースの遊び方 (付録CD-Rの使用法)

めくるめくカードワースの世界へようこそ。みよるにるです。

本編はお楽しみ頂けたでしょうか。エカの公に出る処女作です。…どうでもいいですけど処女作って何だかエ(銃声)。

失礼しました。さて、この章では付録CDの解説、そしてカードワースに関する諸々について解説していきます。諸般の事情(主にページ数)で、大分端折る所がございますが、これを機にカードワースに興味を持って頂ければ幸いです。又、カードワースに関わっていた方がこれを機に戻ってきて頂ければ、これに勝る喜びはありません。

カードワースと言う、奥深い世界へようこそ。

貴方の冒険が、波乱に包まれている事を、確信します。

さて、付属CDは以下によって構成されています。

- ・カードワース本体

これが無ければ始まらない、ソフト本体。groupaskによります。

- ・カードワース・バリエーション 現代I型

現代風に変換されたカード群。愛護協会によります。

- ・えごてく「ジャツカルと猫」序章・プロローグ シナリオ化

現代バリエーションに対応するシナリオ。本書の本編のシナリオ版です。

- ・カードワース・シナリオの再配布

許諾の取れたシナリオについて、再配布を行わせて頂いています。

カードワースとは

カードワースとは、GroupAskというサークルによって、1998年に発表されたフリーゲームです。操作の全てが「カード」で出来る為、非常に遊びやすいゲームです。

カードワース何よりの特徴は、「シナリオが追加出来る」ということです。カードワースが発表された1998年から、様々なシナリオ、そしてその素材となる画像や音楽などが作られてきました。

しかし今、カードワースは危機にあります。フリーゲームというモノがブラウザゲームなどに駆逐されかける今、カードワースも漏れなくその危機に直面しています。(とは言え、直面してから既に何年も経っています)

シナリオ、素材等を公開しているサイトは管理者の失踪、無料HPサービスの終了などによって姿を消し始めています。

それに反抗すべく、みよるにるは色々とやろうと…発起したところです。残念。

肝心の遊び方

肝心の遊び方ですが、CDをパソコンのCDドライブに入れば、プログラムが自動起動します。

そのプログラムから、カードワースをインストールすることができます。

インストールが終われば、スタートメニューから起動して下さい。

詳しい遊び方については、スタートメニューから開けるヘルプ(えごてく版)から参照することができます。今回、紙面の都合上詳しい解説を記すことが出来ませんでした。平にご容赦下さい。又、シナリオの追加も、ヘルプを御覧ください。

カードワースで何かしてみたいと思った方へ

カードワースで何か作ってみたい、と思つて頂けた方。是非参加下さい。

<http://cardwirthnev/>

にて、様々な説明などを作っていく予定です。(まだまだコンテンツ不足ですが)

あとがき

エカ

はじめまして、エカと申します。

この度は「ジャッカルと猫」序章をお読みいただき、本当にありがとうございました。まさか自分の作品が、このような形で出せるとは思いもしませんでした。みよるにるからシナリオの話が出たときは、それは驚きました。

「えっ、私のお話使うの！？やたーっ」

なーんて心の中かで小躍りしたものです。

様々な制約のなか、大学ノートに書き溜めた原稿を、チマチマとソニータブで打鍵するんですが、元がアナログ人間なもので……。

タイピング練習しておきます。ええ。

さて、この「ジャッカルと猫」なのですが、フォーサイスの「ジャッカルの日」に大きな影響を受けて書き始めたもので、他にもS・ハンターの「蘇るスナイパー」などにも影響されています。

よくみよるにるから「ヤングガンのパクり？」なんて言われますが、違いますよ、そもそも読んだことないよ、ヤングガン・カルナバル……。

今度読んでみようつと。

昨今のライトノベル・アニメ業界でも、リアルなガンアクションが定着してきましたが、一風変わった「銃器モノ」として楽しく書いていければなあ、と思います。とりあえず、ベレッタさんにはお休み頂こうかなあと(いき)

ちなみに、下手ながら表紙絵も私が描かせて頂きました(郵送が間に合っていればの話ですが)。

……まあ、少しずつ上達できればと。

それでは、夏には完結編が完成しているハズですので、よかつたら読んでくださいね！

私のこのお話が、カードワースを盛り上げるのに少しでも役にたてたら。そしてこのお話をココロの片隅に置いていただけたら幸いです。

では。

くだいぶ降ってきましたね、雪々 エカ

カードワース・シナリオ 「ジャツカルと猫」^{プロローグ} 序章

発行：二〇一一年一月三十一日 初版

著者：エカ

編集：みよるにる

発行者：みよるにる

連絡先：

<http://egotex.net/>

egotex@jpcube.net

印刷：サンライズパブリケーション

※本書のコピー、スキャン、電子データ化等の無断複製は、著作権法上での例外を除き、禁じられています。
なお、本書とほぼ同内容のデータが発行者連絡先ページよりダウンロード可能になる予定です。

「カードワースを一生遊べられますように」 — みよるにる